

めぐみ

2024年
9月号

学校法人 聖公会北関東学園

認定こども園

初雁幼稚園

〒350-0057 川越市大手町 8-5

Tel 222-5385 Fax 228-5010

ジェットくんが気づかせてくれたこと

主幹教諭 森重 路子

オーストラリアにいる3番目の娘から、「偶然、ジェットにバッタリ会ったんだ」と連絡をもらいました。娘は大学4年生ですが、1年間休学してオーストラリアでワーキングホリデーを過ごしています。娘とばったり会ったジェットくんは、5年前オーストラリアから2週間ほどわが家にホームステイにやってきた男の子です。娘の高校では、オーストラリアの高校と毎年交換留学の事業をしています。高校1年の時に娘もオーストラリアに3週間の短期留学をしました。翌年はこちらの高校で留学生を受け入れることになっており、わが家にやってきたのです。娘の連絡を受け、懐かしく思い出したジェットくんの存在。彼はわが家にいろいろなものをもたらしてくれました。

5年前のわが家は、家族それぞれが自分の生活にいっぱいいっぱい、他人を受け入れる状況ではありませんでした。特に受け入れ時期が9月中頃で、夫も私も仕事柄行事に追われる大変な時期…娘がわが家でホームステイの受け入れをさせて欲しいと訴えたものの、できないと断ったのです。しかし、娘はそんな状況なのに虎視眈々と作戦を練ってきたのです。「受け入れを希望する家庭が多いから、1週間という選択もあるよ」「女の子だったらどうかな」などと言って、こちらの隙をつき、結局、受け入れ希望家庭が敬遠する男の子を2週間に渡って預かる手筈を整えてきたのです。

決まってしまったのなら仕方ないと、それからは準備を始めました。クーラーを設置したり、壊れてしまった家の諸々を手直ししたり、大掃除をしたり。何より心配していたのは、お年頃の子どもたち。それぞれがリビングにいても勝手にスマホを眺め、不機嫌と無口の日々の中、迎え入れることはできるのだろうか、しかも2週間！そして言葉の壁。そんなこんなで身長196cmのジェットくんがやってきたのです。陽気なジェットくんは、いつも笑顔で明るく気持ちのいい青年でした。普段無口な家族も、身振り手振りの拙い英語で話しかけます。脱いだら脱ぎっぱなし、食べたら食べっぱなしの普段の子どもたちですが、みんなこの時ばかりは違いました。ジェットくんと楽しいひとときにしようと、みんながそれぞれがんばりました。

ジェットくんの滞在中、彼の誕生日がありました。しかし、その日は長女とその夫が結婚の挨拶にくる日でもありました。私は初めての子どもの結婚の挨拶ということに気持ちを奪われ、ジェットくんの誕生日のことを失念していました。ジェットくんの外出中に結婚の挨拶の場を終えたところで、彼の誕生日のことを思い出しました。そこで、サプライズの誕生日会をジェットくんが戻ってきたら行おうと、みんなで必死に用意を始めました。サプライズのために敢えて何もなかったようにしていたという作戦です。家族みんなの必死の準備のおかげで、夕方ジェットくんが戻って来て、サプライズパーティーを開催できました。

ジェットくんの滞在中、彼を通しての会話で普段気づかなかった家族の思いや、行動も知ることができました。ジェットくんが帰ってしまった後、ほっともしましたがなんだか寂しく感じたのは、ジェットくんの不在だけではありませんでした。

家族の中でうまくいかないこと、その空気感がぐるぐる回っていて、どうしたらいいかと思う時が多々あります。そんな時に風穴を開けてくれたのがジェットくんでした。もちろん、ジェットくんが来て、その後わが家の全てが良い方向に向いたわけではありません。一時的にうまく回っていただけかもしれません。でも何かあった時は、みんな協力する気持ちがあるということが分かったこと。家族みんながみんなのことを大切に思っているのが分かったことは、大きな収穫でした。家族以外の人には、気持ち良く対応するわが家族。これからもいろいろなお客様を招いて、新鮮な風を吹き込んでいきたいです。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「ひろがる」

今月のねがい

- 身体を十分に動かして、挑戦する
- 夏の経験を通して、遊びが広がる。
- 目に見えない神様の存在を感じる

学年別のねがい

- (1歳) 模倣して遊ぶ
- (2・満3歳) 気持ちを表す
- (年少組) 友だちの存在を強く感じるようになる
- (年中組) 友だちの思いを知る
- (年長組) さまざまな感情を経験し、乗り越えようとする

ひとこと

夏を越えると、毎年、心も体もひとまわり大きくなった子どもたちに出会うことができます。夏の経験を通して味わった楽しさや満たされた気持ちが自信となって現れているように思います。2学期、夏の自信を携えて、元気にさまざまなことにチャレンジしてほしいと思います。友だちと共に心をたくさん動かしながら、いろいろな思いを味わって、自分の世界を、心を、大きくひろげていく9月となりますように。

今月の聖歌

「ロケットにのって」



★予定★

日	曜	行事などの予定
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	連絡係打合せ 保健安全委員会（希望者）
5	木	アルミ缶回収
6	金	全体礼拝 ↓
7	土	就労家庭保育実施日、園内整備 お父さんたちとの交流会（有志）
8	日	
9	月	年中参観・懇談・交流会 保育部個人面談週間（～13日まで）
10	火	年少参観・懇談・交流会
11	水	年長参観・懇談・交流会
12	木	
13	金	全体礼拝
14	土	就労家庭保育実施日
15	日	
16	月	敬老の日
17	火	
18	水	職員研修④
19	木	
20	金	全体礼拝
21	土	就労家庭保育実施日
22	日	
23	月	秋分の日
24	火	
25	水	9月生まれ誕生会
26	木	
27	金	全体礼拝
28	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会③
29	日	教会学校秋の遠足
30	月	

チャプレンのページ

季節の移り変わり



いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、
葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる

(マルコによる福音書 第13章28節)

今夏は昨年以上の酷暑となり、皆様も難渋しつつ日々をお過ごしだったのではと思います。暑さのせいでしょうか。教会では今夏逝去者が相次ぎ、6人の方々が亡くなりました。突然の逝去だった方もおられ、ご家族の落胆の様子にかけられる言葉もありませんでした。

そのような中、初雁幼稚園の草津キャンプをはじめ、多くのキャンプに参加する機会がありましたが、ここはいったいどこなのか、今の季節はいったいいつなのかと思うことしばしばでした。

ウグイスの鳴き声が聞こえるかと思えば、明け方にヒグラシ蝉が大合唱、8月後半になると聞こえてくるはずのアブラゼミやツクツクボウシの鳴き声を今年はまだ聞いていません。また埼玉では聞くことが少なかったクマゼミの鳴き声が数多く聞こえてきました。気候変動とか地球温暖化が指摘されていますけれども、これまでの季節感や常識を根底から覆される思いがして、子どもたちの未来が大切に守られていくのだろうかと心配になりました。

イエス様のおられたユダヤの国は、南北で気候が全く異なっています。北は地理で言う地中海性気候の緑豊かな農業に向けた地域になり、今日でも農業が盛んです。南は砂漠地域で、雨期でないと雨が降らず、栽培できる作物も限られていました。冒頭に出てくるいちじくは寒さや気候に強かったため、砂漠地帯にある首都エルサレムでもよく栽培されていました。

枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かるというのは、季節の移り変わりの重要性を語ると共に、収穫の時が近づいているとの語りかけに耳を傾けるよう、促しているのです。

そして、私たちが住む世界に愛が増えてきたら、人々の心に温かみが増すのを実感したら、神の国の支配が近づいていることを知りなさいと語っています。神の国は必ず私たちの世界を包み込む、罪と悪が減ぼされ、神様の御心が完全に行われる世界が必ず訪れる、季節の移り変わりを実感するのと同様に、神の愛が近づくのを実感できる者でありなさいと語っているのです。

世界各地で戦争が行われ、気候変動や温暖化が指摘され、聖書の世界でも拠り所となっていた季節の移り変わりがこれからどうなっていくのか不安に思いつつも、神様の愛がこの世界を包む日が早く訪れるよう願わずにはられません。

2学期がスタートします。子どもたちと皆様の上に、神様の豊かな祝福がありますよう、また子どもたちの心身のよき成長の時になりますよう、祈ります。

(チャプレン 鈴木 伸明)

特集 草津キャンプ 7月23～25日

先日、今年小学1年生になった卒園生のご家族が草津に行かれたそうです。聖バルナバ教会の日曜日の礼拝に出席された後で、草津の松浦司祭にマーガレット館を案内していただいたとのこと。卒園してからも「もう一回、すみれ組のみんなで草津に行きたい!」と言っていたお子さんでした。それぞれ印象に残ることは違いますが、忘れられない思い出になることは間違いありません。今年の草津キャンプについて、ご報告いたします。

自分たちで乗り越えながら、想像以上に成長!



キャンプ前からバスに乗ることを楽しみにしていた子どもたち。先生たちもバスレクを用意しましたが、バスにマイクがない!まさかのハプニングでしたが、地声を張り上げる中行われたバスレクと美由紀先生の2時間バスガイドは大盛り上がりでした。その中で3日間を乗り切る応援歌も誕生しました。1学期からキャンプごっこの中でイメージを膨らませ、いざ草津へ!

河原は暖かい所と冷たい所がある。水の流れが速くて先生や友だちと手をつなぎ協力しないと進めない。キャンプファイヤーの火は思ったより高く上がる。できたての松むらまじゅうは温かい!など実際に体験して気づくことができました。2日目は彩乃先生がカレー作りからお風呂の時間まで手伝いに来てくれました。子どもたちは飛びあがるほど嬉し

く楽しい時間でした。特にカレー作りでは彩乃先生担当の野菜だけ大行列ができ、当番で培った包丁捌きを披露していました。

キャンプは子どもたち自身で乗り越えることも必要です。それを強く感じた場面は暗闇探検でした。真っ暗な中で友だちの悲鳴を聞いて、思わず涙が出てくる子も。「どうしたらいいかな」と子どもに投げ掛けると、「ぼくが一緒に行くよ」「みんなで行こうよ!」と励まします。暗いのが怖いと分かると「みんなでサイリウムをもって照らしていこう」とサイリウムを掲げて、泣く子をボディガード!「大丈夫だよ」「お化けさん優しくお願い!」と励まし合い、達成感あふれた顔で探検を終えることができました。一緒に過ごす時間が長かったからこそ、みんなががんばろうと強く感じた瞬間でした。

2年前みんなが年長になった時どんなキャンプになるのだろうと考えていましたが、想像よりも成長し小さな体でがんばっている子どもたちに思わず涙する担任でした。

夜中のトントン、授乳期を思い出しました

今回、私はすみれ組のお母さん・お父さんたちから、子どもたちと一緒に「いってらっしゃい」と送り出してもらいました。少し涙を出してしまう子もいましたが、がんばって行ってきましたよ。幼稚園でキャンプごっこをして遊んでいたことで、西の河原では「本当だ!冷たい所と暖かい所もある!」「えびがいると思ったのにな」と現実を受けとめる子どもたち。キャンプファイヤーでは元気よく覚えたダンスと歌をうたって盛り上がりました。みんなで楽しみ、一日があっという間に過ぎていきましたが、夜は寝る前にお母さんを思い出してしまう子がちらほら出現…「大丈夫、大丈夫」と声を掛けながらなんとか眠りにつくのでした。

2日目も楽しいことが続き、イベント尽くしの時間がやってきました。寝る時は1日目と違って気持ちに余裕がある子も増えてきましたが、数名は涙…思い出しては涙となりました。それでも1日目よりも早く寝るのでありました。時々起きてのトントン、わが子の授乳期のような眠りの浅い体験を久しぶりにしてきました。

元気いっぱいすみれ組の子どもたち、よく食べ、よく遊び、マーガレット館が壊れてしまわないか心配になるくらい足音が響き渡っていました。草津キャンプが終わり、一ヶ月が過ぎましたが、みんなで思い出して描く新聞づくりをして2学期スタートしたいと思います。

4年ぶりのキャンプ～お楽しみ西の河原～



4年ぶりに参加した草津キャンプ。久しぶりの参加、そしてたんぽぽ組で一緒だったみんなと行けることが何より嬉しく、心躍らせながら参加させてもらいました。

草津に着いて最初のプログラムは、お楽しみ西の河原。草津の街中を抜けて、向かいました。草津キャンプは、いつも天気に悩まされることが多く、この時も怪しい雨雲が心配されました。そんな天候もあったのか、西の河原には他の観光客の方がほとんどいなくて、みんなでのびのびと河原遊びを満喫しました。久しぶりの西の河原は、川の流れが速いように感じましたが、子どもたちは、なんのその！果敢に川へと探検を開始しました。ひと通り川探検が終わると、虫探しをする子、急流を果敢に攻める子、あったかいお湯の場所でのんびりする子と楽しみはそれぞれ。「怖いから、手をつないでいて」と言っていた子がジャブジャブと楽しんでいたり、腹這いになってのんびり楽しんだり、たっぷ

り遊ぶことができました。西の河原はトンボが多く飛んでいて、「トンボ捕まえられた！」と嬉しそうな顔で報告してくれる子もいました。途中、遠くから雷の音が聞こえ雨もポツポツときましたが、あずまやで休憩する間にまた青空が戻ってきてくれました。

虫好きの子が多く、自然の中を楽しめるこのクラス。みんながたっぷりのびのびと自然を満喫して遊んで欲しいと思っていたので、西の河原はぴったりな場所でした。そんな子どもたちと身体も心も自然に身を委ねて楽しむことができ、幸せな時間でした。感謝!!

子どもたちの背中を押してくれた応援歌



行きのバス内で盛り上がった歌がありました。タオルを回しながら「がんばれ～がんばれ～、み～んな～でがんばれ～♪」と歌い始めたのは美由紀先生。気づいたらこの歌は子どもたちにも保育者にも浸透し、キャンプの3日間、さまざまな場面で耳にしました。

特に印象的だったのが、3日目のお土産を買いに行った時です。マーガレット館から松むら饅頭のお店までは、急な上り坂、そして急な下り坂があります。行き帰りの往復で、そこを2回通ります。3日目ともなると、だいぶ子ど

もたちも疲れが溜まってきています。涼しいとはいえ、日差しが強く、暑さを感じました。そんな中、目の前には急な登り坂…そして聞こえてきたのがこの歌！顔に疲れが出ていた子どもたちも、気づいたら一緒に歌いながら楽しそうに坂道を上る子、ペアの友だちを応援する子、さっきまでの疲れが嘘のように笑顔が戻りました。上り切ったと思ったら今度は下り坂。転ばないように慎重に、だけど歌いながら楽しそうに下りていきます。帰りはお饅頭の重さもあって、さらにお疲れモード。だけどやってきた坂道でまたまたあの歌が！全員でお土産を買いに行って、歩いて戻ってくることができました。

3日間は、子どもたちにとってはすごく長くて、いろいろな経験をしたことと思います。寂しくなった時、疲れた時、この歌を聴くと、顔つきが少し変わるのを何度も見かけました。2学期もきっとこの歌が子どもたちの背中を押してくれることと思います。この貴重な時間を一緒に過ごせたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。

今年のキャンプはスペシャルだらけ！

今年のキャンプを一言で表すとしたら…スペシャルプレゼントにスペシャルゲスト続きのまさにスペシャルキャンプ！よく動いて、よく食べて、よく泣いて騒いでいるうちに、あっという間に3日間が過ぎ去りました。子どもも大人も心に残ったキャンプをご報告いたします。



まず一つ目は差し入れのスペシャルプレゼントです。卒園生の峯岸さんから大玉黒スイカ、大きすぎて食べても食べても食べきれず、2日目のおやつと夕食後のデザートでいただきました。甘くておいしくて喜んで食べていたところ、利尿作用が働き、お風呂前にトイレに入って出かけたものの、現地でもう一度トイレに入る子が続出しました。

すみれ組の大河原さんからは、畑で収穫されたミニトマト、いんげん、じゃがいもの差し入れをいただきました。おかげさまでじゃがいもは購入しないで済みました。美由紀先生の畑からはみょうがとブルーベリー、幼稚園で収穫したピーマン、草津の松浦司祭からはきゅうりとズッキーニとブルーベリーをいただきました。途中で立ち寄った道の駅おのこは、野菜の値段が驚くほど安く、新鮮でおいしいので必要な野菜のほとんどを購入します。おいしそうなオクラを買い足し、ミニトマトときゅうりの塩もみをほぼ毎食出し、その他に①おくらといんげんの和え物②ズッキーニのみそ炒め③みょうがとオクラとピーマンの炒め物が加わりました。野菜好きの子が多かったため、大人用に加えたメニューを食べてくれる子がたくさんいて嬉しかったです。よく食べた上に野菜量も豊富だったこともあり、現地でうんちを出せた子も多くいました。うんちは健康のバロメーターであることを先生たちが声を大にして伝えていたので、子どもたちもうんちが出ると嬉しそうに報告してくれました。

次の二つ目はスペシャルゲストの登場です。2日目の朝、理事長の矢萩栄司先生が到着しました。リーかあさまが弾いていたオルガンを兵庫県から車で運んで来てくださったのです。せっかくなので、一緒に朝食をいただき、朝の礼拝にも出席してくださいました。初めてお会いする理事長先生に緊張したのか、朝食だけはとても静かな時間となりました。



2日目の昼食後、松井彩乃先生がたくさんの差し入れを持って遊びに来てくれました。これには子どもたちは口をあぐり開けて大喜びでした。一緒にカレー作りをして、順番にお風呂に出発している間にマーガレット館で彩乃先生とゆっくり（激しく？）遊んで過ごしました。夕食と翌日の朝食でいただいたおいしいジュースをたっぷり飲んで満たされました。

松乃井旅館では、すみれ組の山口さん（お父さん）が男の子のお風呂の手伝いに来てくださいました。お子さんの体調を考慮し、ご夫婦で近くのホテルに滞在してくださっていたところ、嬉しいお申し出をいただきました。今年は女の子6名、男の子14名のクラスです。人数が多いので、体を拭くのも入浴後の子どもの見守りなども、何かと助けていただきました。

最後の三つ目は、ミラクルに近いスペシャルタイムな出来事の連続です。1日目は滅多に遭遇しない新幹線を見られ、全員でテンションが上がりました。道の駅おのこでは、短時間の中で電車を見られ、八ッ場ダムではエメラルドグリーンの水に驚き、その上空を数基の飛行機が飛んでいきました。真夏の草津でしたが、すでに秋を感じさせる気温にたくさんのトンボたち。雷の音と急な雨にも出会いましたが、そこに夏を感じました。3日目は草津から埼玉に戻る途

中に空が急に暗くなり、どこかしらがピカピカと光る雲を眺めていたところ、車が急に雨の中に突入！自然の変化をみんなで感じることができました。

草津キャンプでは、子どもたちを温かく見守り、成長へと導く力を毎年感じます。リーかあさまの働き、そして神様の導きに触れられるこの機会にお子さんを送り出してくださったご家族の皆様、ありがとうございました。



今月の聖書のおはなし



☆ 9月6日 「タラントンのたとえ」

マタイによる福音書 25章 14～30

2学期は、イエス様が話してくださった天の国のたとえ話が続きます。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで一人には5タラントン、一人には2タラントン、もう一人には1タラントンずつ自分の財産を預けました。はじめの二人はそれで商売をして2倍もうけました。しかし最後の一人は穴を掘って金を隠しておきました。戻ってきた主人は、最後の一人に「誰でも持っている人はさらに与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる」と言い、怠け者の悪い僕として追い出してしまいました。

☆ 9月13日 「仲間を許さなかった家来のおはなし」

マタイによる福音書 18章 21～35

ある王が家来たちに貸した金の決済をしようとしたところ、1万タラントンものたくさんの借金をしている家来がいました。王様はその家来を憐れに思い、その借金を帳消しにしてあげました。ところがその家来は、自分に少しの借金をしている仲間に出会うと、借金を返すまで牢屋に入れてしまいました。それを知った王様は怒り、家来を牢役人に引き渡してしまいました。

☆ 9月20日 「ぶどう園の労働者」

マタイによる福音書 20章 1～16

ぶどう園で働く労働者を雇うために、主人が夜明けに広場へでかけていきました。主人は1デナリオンの賃金を払うと約束をして最初の労働者を雇いました。主人はその後、9時、12時、3時、5時と広場へ行き、ふさわしい賃金を払うことを約束して労働者を雇いました。夕方になり、主人は労働者に賃金を渡し始めました。最後の5時に来た労働者が1デナリオンもらったのを見て、最初に来た労働者は自分のもっともらえると期待しましたが、受け取ったのは同じ1デナリオンでした。不平を言うその労働者に主人は「不当なことはしていない。最後のものにも同じように支払ってやりたいのだ」と言いました。

☆ 9月27日 「フランシス物語」

10月4日は初雁幼稚園の開園記念日です。この日は「聖フランシスの日」として祝われています。毎年この日に近い全体礼拝の日に、イタリアのアッシジに生まれ育ったフランシスの話をしています。フランシスの人柄や働きを伝えるいろいろな話が伝わっています。なかでも、狼の話は有名です。アッシジの町は暴れ者の狼で困っていました。狼が時々あらわれて飼っている羊や牛ばかりでなく、時には人間も襲うのです。人々は狼退治に行くことにしました。その話を聞いたフランシスは狼のところに行き、神様の前では人間も動物もみんな兄弟だよと諭しました。